

第7回（令和元年度 第1回）経営評価委員会 議事録

令和元年7月31日（水）午前10時00分～午前11時30分
コミュニティセンター1階 中会議室

出席委員：高杉委員長・鹿島委員・木村委員・露口委員・楨野委員・吉岡委員（6名）

内 容：

議 題

① 平成30年度 運営状況（4月～3月）について

指定管理者から「資料1 和泉市立総合医療センター運営事業 平成30年度運営状況」に沿って、平成30年度の運営状況の報告を行った。

- 1日あたりの患者数は入院が299人、外来患者数が850人となり、それぞれ前年度比で69人、291人の増加となった。
- 診療単価は、入院は前年度から16.5%増。外来については、前年度と比べて20.4%増となった。
- 救急患者数は14,820人となり、前年度比で4,450人と大幅に増加した。救急患者のうちの搬送者は3,526人、搬送者の入院率は31.3%となった。
- 和泉市消防本部からの救急搬送件数は2,351人となり、前年度比で1,022人(76.9%)増、市外搬送は2,804人へと347人(11.0%)の減少。
- 平均在院日数は、全診療科で12.0日となり、前年度比で1.4日短縮された。
- 患者紹介率が紹介患者受入増に伴い68.9%となり、前年度比で25.7ポイント増加した。逆紹介率も13.0ポイント増加の45.5%となった。
- 医業収益が62.2%増の99億730万2千円、経常損益は11億5,403万2千円の黒字、税引前利益は11億5,377万円の黒字となった。

上記報告に関して委員から以下の質疑等があった。

（委員）

1点目は、9ページの投書件数で、1人の方が意見しているのか複数の方の意見なのかわからない。例えば、エレベータの場所がわかりにくいというのは、1人の意見ということなのか、何度も同じ内容の投書があるということなのか。

もう1点は、すばらしい決算内容だが、民間会社であれば業績賞与等、収入も増えると思うが職員の待遇はどうなっているのか。

（指定管理者）

投書意見は、平成30年度年間を通して代表的な意見を記載している。新病院がオープンして2～3か月は、職員の案内が不慣れなこともあり、エレベータがわかりにくいといった声が何度かあった。現在では適切に案内できており、ハード面での苦情は減っ

ている。投書に対しては、これまで同様、患者サービス向上委員会で内容を検討し対応している。

また、職員の待遇については、人事評価も行い、大きな差ではないが、賞与も一律にならない形で給与面の対応をしている。ただし、前年度は建設費や医療機器の市への支払いはなかったが、今年度から支払いが始まるので収支の影響を考えて対応していきたい。

(委員長)

ハード面でわかりにくいという投書は、指定管理者が適切に対応しなければならない部分である。

(委員)

代表電話がずっと話中という苦情について、可能であれば専用ダイヤルを設け、内容別に受け付けるのがよいのではないか。

(指定管理者)

内容別の専用ダイヤルが必要か検討したい。

(委員)

税務署でも内容別に案内されるが、ずっと話中という現状を考えればそうしてはどうか。また、新病院での経営は始まったばかりで、儲かっているから処遇を上げるとか、そういう段階ではなく、まずは、安定した経営を行っていくことが重要である。

(委員)

いわゆる給与比率が43.9%というのは、優秀な数字であるが、人員配置を見ると、追いついていない状態での数字ではないかと思う。今年の4月にかなり増員されたが、今年度の決算の人件費はどのくらいを予想されているのか。

(指定管理者)

救急等、質の高い医療をするためには、人件費が高くなるため、40%台後半になると想定している。

(委員)

4ページの⑧救急搬送の受入れで3,526名が搬送され、和泉市の消防では⑨2,351名であるため、約1,200件が他市である。前年より増えているがその理由は。また、この数字は大阪府内の公立病院のランキングでどの程度なのか。

(指定管理者)

救急に関しては脳卒中のホットラインを始めたことにより、市外からの救急が増えている。

(委員)

市外から来る理由は小児科がしっかりしているからではないか。小児科は救急を受け入れる病院が少ないので、市外から来ることになる。市外から来るのは堺、あるいは泉州地区から来るのか。

(指定管理者)

小児科は以前から夜間の輪番制をとっているため、高石市から岬町までの泉州地域から当院に来ることになる。

(委員)

小児科の割合が大きい気がするが、現状はどうか。

(指定管理者)

必ずしも小児科だけが多いということではない。血液内科、呼吸器内科など新たに多数の診療科が増えたことや、呼吸器内科を泉州地区で専門にしている病院が少ないため、救急搬送されることもよくある。

(事務局)

公立病院の救急の状況は、平成 30 年度の当医療センターの数字は 3,500 件という数字となっているが、平成 29 年度の大阪市以外の府内 16 の公立病院について、救急搬送数は、堺市が 9,300 件、りんくうが 3,800 件、豊中が 5,700 件、東大阪が 5,800 件となっている。医療センターは、ほぼ中位である。

(委員)

参考資料の一番最後に新改革プラン目標数値の変更となっているが、これはどのようなことか。

(事務局)

今年度の評価について、参考資料 2 の 11 ページ、5 年間の目標数値、入院患者、外来患者、救急患者、経常収支のそれぞれの 5 年間の目標数字を設定している。平成 30 年度に新病院がオープンして、特に外来患者目標数が、549 人、585 人、601 人としていたが、新病院オープン後 900 人を超える状況で、目標と現実が大きく乖離しており、高杉委員長から見直しが必要であるのご指摘をいただいたことから、改訂版の目標数値を設定するため指定管理者と協議を行った。

入院患者数については 95%程度の利用率が適正であるとのご意見があったため、目標数値を見直し、外来患者については 890 人、925 人で変更しており、救急受入数、搬送数を現状に合わせて変更すると、収支計画の見直しもあり、収支比率も変わることから、新しい目標数値で見直しをさせていただいている。

(委員)

収支計画書では平成 32 年度の人件費が 40 億円となり、医業収入 (78 億円) に占める

人件費比率が51.2%となる。この人件費の増加で賄われる医療サービスはどのようなものか。

(指定管理者)

市立病院で地域の急性期医療を担うとなると、基本的に足りないのは手術室である。手術室を充実するとなると医師、スタッフ、リハビリのスタッフが必要。病院をどのように運営するかで人件費比率は変わってくるが、救急診療の機能を充実した場合、50%位までに抑えるということというのが目標である。

(委員)

人件費比率は少なくとも50%に抑えるとのことだが、病院経営において大事なことは、当院の人件費率がどのように推移していくのかということであって、他院と比べて、高い低いといっても参考にならない。病院の経営方針を時系列で見たときに今後上がっていくのか、下がっていくのかどうなのか。

(指定管理者)

人件費比率は、今は40%台にとどまっているが、まだまだ対応できていない部分もあるからことから、今後上昇に転じると思われる。

(委員長)

医療の内容をどう追求するかによって、人員配置を考えないといけない。病院の運営にあたっては、50%前後又は少し切る位というところであれば、健全な経営ができるということであると思う。

② 平成30年度 進行管理(PDCA)チェックシート兼経営評価シートについて
事務局から「資料2 平成30年度 進行管理(PDCA)チェックシート兼経営評価シート」に沿って指定管理者の自己評価、市、委員会の評価を報告した。

(委員)

投書の内容は記載されているが、対処・改善を行った内容についても書くべきである。

(指定管理者)

意見があったことを掲示板等でお知らせする方法もあるので、その点については検討していきたい。

(委員長)

患者さんからいろんな投書、ご意見をもらって、対応はしていると思うが、具体的にどんな対応をしたかが書かれていない。実際はできるだけの対応をしていると思う。

(委員)

私も当医療センターに足を運んでいるが、病院の全体的雰囲気は非常に良くなってお

り、努力の成果だと思う。料金の精算も当初は時間がかかったが、1年たって待ち時間、精算時間も改善されている。

去年の4月と今年の4月とは状況が違う。今は落ち着いてきたと感じる。

(委員長)

今までは、あまり市立病院に期待する人は少なかったが、最近良くなったという人が増えているのは事実であり、私たちも評価したい。

ただ、接遇面では、職員はもう少し親切に、にこやかに対応してもらいたい。

(委員)

現状では、何曜日の何時頃が一番駐車場が混みあうかということ、病院側も把握していると思う。混雑時は、岸和田南海線方面の西側緊急車両等用の入口から入ってくる車が、東側入口から入った車に割り込んでおり、ガードマンも制止できず苦勞している。信号を時間帯で変えるとか、岸和田南海線側から入らないようにするなどの対応をするべきである。

(指定管理者)

想定以上の患者さんに来院頂いており、そのため時間帯によっては駐車場が混み合いご不便をおかけしている。対策として、隣接の職員駐車場の活用や、敷地内の最大限の活用について、再度対応を検討したい。また、岸和田南海線側からの進入についても行政と協力して対応を検討したい。

(委員長)

他に特に意見がないので、このPDCAの数字を委員会の評価とする。

③ 平成30年度 答申(案)について

事務局から「資料3 平成30年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による運営状況の評価について(答申)(案)」を説明した。

- ・評価については、採点方式とともに、数値で表示しがたい点については、委員会からの意見を付した。
- ・救急患者数及び和泉市内の搬送者数は前年度比1,022人、76.9%の増加となった。
- ・入院、外来患者数は、ともに前年度を大きく上回る数字となった。
- ・評価結果としては、先ほどの資料2の結果を反映させており、100点満点で91点、総合評価が5段階で1番目の「s」となった。
- ・付帯意見としては、経営が黒字であれば、市民にどういう形で還元するかということが課題であるという意見や、救急搬送は、市外搬送をできれば市内で完結できるよう努力してほしいとの意見があった。
- ・総括として、新病院の移転開設、医師の増員により好調なスタートを切り、特に、救急医療については、24時間365日の受け入れ再開を行ったことは重要である。これらの結果、入院・外来患者数、収支決算ともに想定を超える好成績となっており、新病院への円滑な移転や効率的な病床管理等、指定管理者の手腕を評価するとして

いる。

(委員)

指定管理者の運営状況について、運営が黒字なら市民にサービスを還元とあるが、たまたま黒字であったとしても早く市民に還元しなければならないという表現に感じる。まだ病院の経営状態が安定していないのに、現時点で、黒字ならば市民にサービスを還元ということに直結するのは、時期尚早ではないかと思う。

(委員長)

時期尚早というのは確かにご指摘のとおりだと思う。

(指定管理者)

黒字の場合は病院の医療に再投資し、より機能を充実させた病院として、市民に使いやすい病院に変えていくことが重要だと考えている。

(委員長)

サービスをどういう形で還元するというのかというのは、いろんな形がある。ハード面でのサービス、人的なサービスもあると思う。

(指定管理者)

医療環境のサービスとして良い形で還元したい。

(委員)

救急搬送について、市外へ搬送していた患者を市内で完結とあるが、市内で完結するというのは実現性があるのか。それぞれ救急病院は専門性が違うので、完結は難しいのではないか。

(指定管理者)

現実には難しいが、市内で完結するという目標で取り組んでいる。救急医療については、受け入れの窓口をもう少し広げて、和泉市消防の受入割合をより多くしたい。

(委員長)

完結という言葉が非常に気になる場所であるが、以前からこの評価委員会で問題になっていたことは、市内で発生した患者を市外の病院に送り出していることが多く、市立病院としての機能を果たしていないので、患者を受け入れるべきというところから出発している。完結という言葉は少し不適切な表現だと思う。

④ 令和元年度評価の諮問について

事務局から「令和元年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による運営状況及び和泉市立病院新改革プラン実施状況の評価について(諮問)」の説明を行った。

- ・参考資料 2 により、新改革プランの目標数値について、新病院開設後、患者数が大きく上回る形で乖離しているため、訂正版の目標数値を作成した。
本年度においても、実施状況の点検、評価をお願いしたい。

(委員長)

現在の数値が目標を大幅に上回っているのに、低いままの目標であるのは好ましくない
ので、現状にあった数値に変更してほしいと依頼したものである。
他になければ、本日の議事は以上で終了とする。

(事務局)

委員長はじめ委員の皆様、長時間ありがとうございました。

(副市長から閉会にあたり挨拶を述べる。)